



サンタとイエスの微妙な関係

主任 片柳弘史神父

クリスマスと言えば、トナカイのそりに乗ったサンタクロースが、世界中の子どもにプレゼントを届けに来てくれる日。わたしも子どもの頃、クリスマスの日にはツリーを飾り、家族みんなでケーキやチキンを食べ、楽しい夜を過ごした後、「どんなプレゼントが届くだろう」と楽しみにしながら布団に入ったものです。大人になってキリスト教の洗礼を受け、教会でクリスマスを祝うようになってびっくりしたのは、サンタクロースが出てこないことでした。主人公はイエス・キリストで、その誕生を祝うのがクリスマスだということです。「うーん、なんかあれだけれど、これがキリスト教のクリスマスなんだ」と思って、わたしは納得することにしました。クリスマスというのはもともとキリスト教でイエスの誕生を祝う日だったのだけれど、キリスト教徒でない人たちも楽しめるように、いまのようなクリスマスが祝われるようになったというのが実際のところのようで、わたしはどちらも素晴らしいクリスマスだと思っています。

ところで、サンタクロースに、モデルになった人がいることを知っていますか。サンタクロースは、もともと聖ニコラウスというトルコの司教さん(教会の神父たちのまとめ役)の伝説と北欧の神話が結びついて生まれたと言われています。聖ニコラウスはとてもやさしい人で、夜のあいだにこっそり貧しい人たちの家に行き、煙突から金貨を投げ込むことがあったと言われています。それが、サンタのプレゼントの始まりなのです。

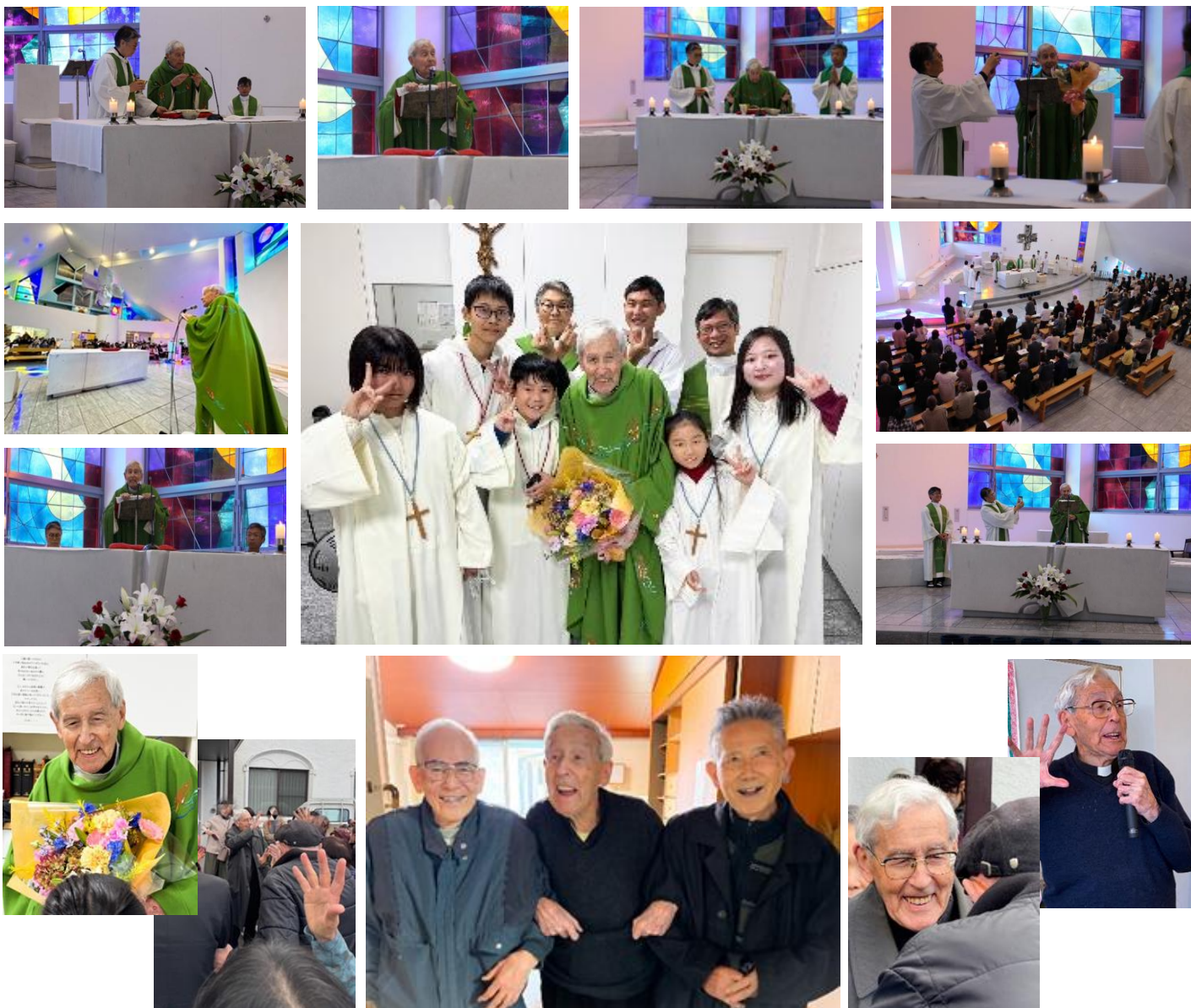
聖ニコラウスだけでなく、わたしたちの心の中には、とてもやさしい気持ちが宿っています。「愛」と呼ばれることもあるそのやさしい気持ちこそ、イエス・キリストだとわたしは思っています。誰かの喜ぶ顔が見たいと思ってプレゼントを一生懸命に準備するとき、家族のためにおいしい御馳走を準備するとき、部屋をきれいに飾りつけるとき、わたしたちの心の中に宿っているやさしい気持ち、それがイエス・キリストなのです。

今年も、たくさんの人の心にイエス・キリストが宿ることを、心から祈っています。メリー・クリスマス。



「愛」をもって「愛」のうちに

カンガス神父様はよくミサの後、子ども達にお菓子を配ってくださっていましたが、「一緒に遊びながら渡す」姿がとても印象に残っています。そんな神父様の送別会、他の用事でどうしても参加できない子ども達も多くいましたが、何とか都合をつけて参加した子供達もいました。普段中々ミサに来られない子ども達や、洗礼を受けておらず、教会に来る機会のなかった子ども達も、「今日が神父様に会える最後の日だから」と言って、神父様を覗きに来ていました。「子ども」は、相手の言葉や行動が、相手のどんな感情から発せられているか、「みんなに合わせて」という「体裁」なのか、「あなたにとって良いに違いない」という「善意」なのか、それとも「あなたと一緒にいたいから」という「愛」なのか、無意識に、でも敏感に感じ取ります。そして、その言動を受け入れるか自由に選ぶことができるなら、子ども達は「愛」してくれている人を選びます。だから、送別会のあの光景を見たときに、「ああ、これは神父様が子ども達を本当に『愛して』くださっているからこそその光景なんだ」と思いました。そして同時に、「人を『愛する』ということは、『ただひたすらに愛すること』なんだ」という、イエス様の最も大事な教えを、身をもって伝えていただいたように感じました。毎週お菓子を配ることはできませんが、神父様から勝手にいただいた「教え」を忘れずにいようと思います。本当にお世話になりました。(久保 謙一郎)





クリスマス市セレモニーが開催されました

～「12月 山口市はクリスマス市になる。」の幕開けイベント～

「12月、山口市はクリスマス市になる。」は2008年から続いている市民参加のお祭りです。

12月になると、街はクリスマスをテーマにしたコンサートやイルミネーション、マルシェや展覧会などで盛り上がります。

クリスマス市セレモニーは、その幕開けを告げるもので、サビエルと大内義隆との出会いと絆、大切な家族や仲間との絆を思うイベントとして、2012年からサビエル記念聖堂で開催されてきました。

昨年からは山口市民会館に会場を移し、今年も12月1日、市民会館の大ホールに700人の観客が集まり開催されました。

プログラムは、開始以来の内容を基本にしています。サビエル記念聖堂の鐘の音(録音)で開幕。聖歌隊ステラの少年少女が歌うグレゴリオ聖歌(録画)に続き、伊藤和貴市長が「クリスマス市長」としてクリスマス市を宣言しました。続いて、子どもたちのハンドベル演奏団体シュルンマーリートが「もろびとこぞりて」「主よ人の望みの喜びを」を美しく演奏し、クリスマスムードを盛り上げました。そして、天使幼稚園の年長さん35人が制服姿で登場、「それもいいね」を大きな声で歌い、たくさんの方の拍手をもらいました。

「クリスマスのお話」では、片柳神父様が白い祭服姿で「クリスマスはキリストが誕生し、愛が生まれた日です。宗教の正しさは、他の宗教を尊敬しともに仲良く生きていくことで証明されます。」と力強く話されました。

その後、毎回参加してくれているゴスペルクワイア、そしてアーティスト(アンリミテッドトーン、ボイスオブジャパン、ダイナマイトしゃかりきサーカス)の皆さんがそれぞれ素晴らしいクリスマスソングを披露され、最後に、観客とともにテーマ曲である「きずな」を大合唱してセレモニーは閉会しました。



プログラム

◇開会

☆サビエル記念聖堂の鐘

☆グレゴリオ聖歌(ステラ)

・クリスマス市宣言(山口市長)

・ハンドベル

☆天使幼稚園のうた

☆クリスマスのお話(片柳神父)

・アーティストの歌

☆きずな大合唱

◇閉会

【マルシェ】

会場の市民会館内では、セレモニーの趣旨に賛同する企業・団体(山口日独協会・EU協会、山口県ペルー協会、山口スペイン・ナバラ協会、JAL)による「世界のきずなマルシェ」がオープンし、世界各国の魅力を伝えるグッズの販売やパネル展示を行いました。サビエル記念聖堂も参加し、片柳神父様が著作されたクリスマスに読みたい冊子やカレンダーを販売し売り上げの一部をセレモニーに寄付しました。(宮地 理)

幼い私の思い出のクリスマス



片柳弘史 神父

日本 埼玉県出身

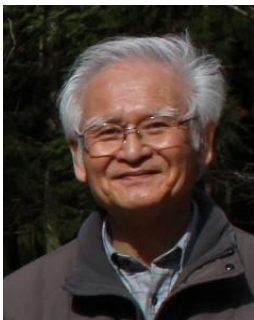
わたしの実家は昔からの農家で、キリスト教とはまったく関係がなかったので、クリスマスと言えばケーキやチキンを食べたのしく過ごす日でした。そういえば、一度だけ小学校の友だちに連れられて教会のクリスマス会に行ったことがあります。おいしいお菓子をたくさんくれたので、「とてもやさしい人たちだな」と思ったのを覚えています。



ドメニコ・ヴィタリ 神父

イタリア出身

イエス様からのプレゼントを期待して待っていましたけれども、同じように、私はイエス様に何をプレゼントしようか、喜んでもらえるものは何かを考えていました。イエス様に恩返しできるように、“自分はもっとしっかりしよう、とか”真夜中のミサに、いつもは行かないけれど、今年は行こう、とか考えました。



外川直見 神父

日本 兵庫県出身

小学校3年で洗礼を受け、クリスマスの前夜、寝る時に母が準備してくれた靴下を前にサンタさんに何をもらおうか、と話していた覚えがあります。けれど翌朝、靴下の中に何を見つけたのか…覚えていません。サンタさんごめんなさい。



グエン・ミン・トアン 神父

ベトナム出身

幼い頃のクリスマスで今も心に残るのは、何よりも「平穏」ということです。少し涼しいクリスマスの夜、ミサにあずかり、帰宅して家族で暖かい夕食を囲み、寝る前にクリスマスソングを聴きました。派手なことは何もなかったけれど、静かな喜びと家族のぬくもりに満ちた、あの穏やかな時間が、今も私のクリスマスの思い出です。

編集後記

2024 年 12 月 24 日クリスマスイヴに聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」開門が行われ、2025 年の聖年が始まりました。
テーマは「希望はわたしたちを欺くことはありません」(ローマ 5・5)
エゴや傲慢で国と国は対立し戦争を…。人と人は弱い人が隅に追いやりられ生きづらさを感じ…。すべての行いは、そこに愛があるということに限る！いつかカンガスが死んでも愛はそこに残るよ！とよくカンガス神父さまが仰ってました。どうか世界中の戦争がなくなりますように！飢えで苦しむ人が一人でも少なくなりますように！身近なところでは、あの人がいつか意地悪をやめてくれますように！と色々な願いと希望をもって過ごした聖年も 2026 年 1 月 6 日で閉門します。
クリスマスおめでとうございます♪ (原田)

発行 カトリック山口教会
主任司祭 片柳 弘史
編集 カトリック山口教会 広報部

〒753-0089 山口市亀山4-1
tel 083-920-1549
HP検索 カトリック山口教会

2025年12月25日 発行